小林浩二：「野外観察のための植物図譜 ―新潟市とその周辺―」によせて

植物を知る喜びは、私たちの身の周りに見られる草花に心を留めて、念入りに観察することによってはじめて感じるようになる。コンクリートに固められた市街地の中心部でも足を止めて見渡すと、僅かなブロックの隙間や敷石の間に緑の”雑草”を見ることができるし、市街地を流れる川の土手や水辺に近づくと、その緑の量が多くなり、多様な形をもつ”雑草”に出会うこともできる。”雑草”といわれるどんな小さい植物もちゃんとした名前がつけられており、自然界を構成する一員であって、おかれた環境の中でその役割を果している。”雑草”に近づき、それに目を向けると名を知りたくなる。花や実のつくりや働きなども詳しく調べてみたくなる。しかし、何の手がかりもなく雑草の名を知るには困難が伴う。植物図鑑を一ページごと丹念にめくって比較して見るのもよいが、極めて能率が悪い。似ているものが多数並んでいると面倒になって途中で挫折してしまう。身近な植物に興味を持った方々に、名を調べることで手軽に役に立つものがあれば、途中で挫折しなくてすむ。その手助けを目的として刊行されたのが、「野外観察のための植物図譜」である。

筆者の小林浩二氏は新潟市に住み、玄関前に咲くような植物を取り上げて、それを繊細な線画で描き続けてこられた。「塵も積れば山となる」の諺のように生きた植物を丹念に観察して多くの図版を完成させてきた。その図版をそのまま、秘蔵にして埋もれるさせるのは惜しいとの関係者の勧めもあり、また少しでも関心のある方々に役立ていただければとの願いから、150種類の草本だけ（木になるものは除いて）を一冊の図譜にまとめて、出版に踏みきった。

図譜の構成は一つの植物について、(1) 全形を示す図、(2) 花・果実・種子・葉・茎など必要に応じてそれぞれの部分を示す図を描き、(1)・(2) の両者を組合せて一枚の図版にまとめてある。とかく植物の図版は原色のものが分かりやすいと思いがちであるが、色の着いている図版は細部の構造が分りにくい場合が多い。植物の細かい形態を知るには、正確に描かれた線画の方が比較するのに分りやすいので、図版は全て線画で描かれている。また、図譜の見開きのページには、できるだけ類似した形態をもつ近縁な植物を対照させているので、左右を見比べてみると二種類の区別が容易にできるように配慮してある。加えて、巻末には形態的な特徴、近縁種との比較、生育地の状況、新しい知見などについても解説してある。

道ばたの植物とこの図譜とを対比させて、どんな”雑草”でもれっきとした”名”があることを知り、自然を構成する一員に親しんで頂きたい。地球上で共同生活している隣人であるという認識にたてば、その保護の必要性が生じてくるであろう。最近、世界規模で自然環境が問題になっているが、身の周りの植物に接することにより、身近な生活環境の変化を察知する手段にもつながる。野の草花にも目を向け、共存のからくりを探って行くことが、身近な自然への理解とその保護につながると信ずる。その手助けをする書物としても多くの方々に利用して頂きたいと願っている。蛇足であるが、多くの時間を費した作品であるのに、出版にかかった経費の実費で配布することからも筆者の自然への理解を求める願いがこめられている。

〔出版案内参照〕　　（石沢　進）

新潟日報　1992年(平成4年)12月19日（土曜日）

植物観察の〝お供〟に

街角に育ち道端に咲く150種

図譜を自費出版

学生時代からの集大成

市総合教育センター　小林浩二さん(57)

「野外観察のための植物図譜」を手に語る小林さん

長年植物資料研究し、現在は新潟市総合教育センターの植物資料室に勤める小林浩二さん(57)＝五十嵐三の町＝がこのほど、同市や近郊の道端などに生えている植物百五十種を図で紹介する冊子「野外観察のための植物図譜」を自費出版した。シロツメクサやブタクサなど身の回りの植物の全形や花などを細かく記録した小林さんは「興味をもった植物の名前や種類を手軽に調べる手助けになれば」と話している。

小林さんは大学時代から植物の観察を始め、文部技官として新大理学部に勤めで、一部を手にとめたもの、「生育の時期を外すとまた翌年まで待たなければならなかったり、いったん採集してきたが仕事に追われているうちに生気がなくなったり、時間と根気がないと描けませんね」と苦労を語る小林さん。一つの植物を描くのに下書き三時間、墨入れに二時間程度が必要という。

「これを参考に、まず近くに生えている植物をじっくり観察してほしい」と呼びかけている。千五百円。申し込み・問い合わせは（262）4670、小林さんへ。

冊子は「秘蔵しておくのはもったいない」と関係者からの研究を続けてきた。定年後は、市総合教育センターの植物資料室に嘱託で勤務し、市民を対象とした植物観察会も企画している。散歩道から畑地、道端、果樹園などで採集した植物の全形、花、実の断面などを細かく描きためていた。

B5判で百九十二ページ。よく見かけるシロツメクサ、ブタクサや、以前はあちこちで生えていたが、現在は帰化植物のセイタカアワダチソウやミミナグサにおされてほとんど見かけなくなったというミミナグサなど、百五十種を紹介。類似植物との違いを比較できるよう配列するなど工夫されている。